

## グループホームのあれやこれ

サービス管理責任者 宮入和子

年末年始にかけてグループホームで新型コロナウイルスの感染者が出ました。2軒のホームで、入居者3名と職員2名です。グループホームの中では、感染者と感染していない人を完全に分けての生活は難しく、トイレなどは共有になってしまいます。

そんな中、世話人たちはこれ以上感染が広がらないよう、自身も感染のリスクのある中、一生懸命対応しました。アイソレーションガウンや手袋、検査キットなど日ごろの備えはあったとはいえ、何より世話人みんなが気持ちを合せて、初めての体験に知恵を出し合って乗り切ることができたと思います。

いつもの日常が戻った時、職員一同心よりホッとしました。



## 避難訓練

11月26日(土)

地震発生と地震による火災を想定した訓練を行いました。新型コロナ感染症のため塩尻消防署の職員の派遣はなく、法人内での訓練となりました。制服を着た消防隊員がおらず、少し緊迫感が欠けましたが、入居者の皆さんは毎年行う訓練のためか、地震時の対応も避難もスムーズにできました。世話人は消火器の使用訓練も行いました。

地震だ！



## Aさんの言葉

世話人 丸山 聡子

入居者のAさん。気に入った言葉や言いやすい言葉を一日に何回となくつぶやいたり、覚えた言葉をぼつりぼつりと口にしたりします。そんなAさんが、時にその場の状況にピタッと当てはまった的確な言葉を発します。

朝仕事に出掛けるのに重い気分のBさんが、「会社に行きたくねえなあ」と言うと、すかさず「ダメじゃん」の一言。これには、Bさんも苦笑い。気分を変えて出掛けて行きました。

Aさんの言葉には、その場の空気を和らげ、周りの人の心を穏やかにしてくれる力があります。ちなみに、近頃のお気に入りの言葉は、「どうしよう」です。困っていなくても「どうしよう」と言って笑っているAさんです。

## 救急救命講習

12月2日(金)

塩尻消防署の職員を講師に迎え開催しました。新型コロナ感染症のため計画するも中止になることを繰り返し、やっと3年ぶりの講習となりました。

胸骨圧迫の実技とAEDの使い方を学びました。参加した世話人からは、「受講のたびに必要性、重要性を強く感じる。」

「毎年やるのがいい」「落ち着いて対処したい」などの感想が聞かれました。

また、のどにお餅を詰まらせるなど気道遺物の除去や入浴時の事故への対処方法も教えていただきました。



強く！速く！  
絶え間なく！

## 相談支援事業所つくしんぼ

相談支援専門員 上條順子



昨年の10月、前任の小松須美子さんから引き継ぎました。

利用者さんと挨拶を交わし、作業をされる様子を見せていただきながら、お一人おひとりのサービス等利用計画を作成させて頂いています。

相談支援専門員としてはまだまだ経験不足ですが、関係される皆さまとの関わりを大切にしながら仕事をしていきたいと考えています。よろしくお願いします。